

地域密着型 ITS が観光スケジュールリング行動に及ぼす影響の分析

広島大学大学院国際協力研究科 学生員○住吉祐志
 広島大学大学院国際協力研究科 正会員 李百鎮
 広島大学大学院国際協力研究科 正会員 藤原章正
 広島大学大学院国際協力研究科 正会員 張峻屹
 広島大学大学院国際協力研究科 正会員 周藤浩二

1. はじめに

IT 社会と呼ばれる今日では、インターネット等の情報機器が急速に普及している。また、こうした状況下から観光市場に変化が起こり、観光振興を目的とした情報提供システムが充実してきている。よって本研究では、この情報提供システムに着目する。この研究の中で、個人が様々な観光情報の中から必要な情報を選択していく観光スケジュールリング行動が重要な要素となる。つまり地域の魅力を生かした観光交通を誘発する情報提供システムを構築するためには、観光スケジュールリング行動で得られる情報の量や種類によって変化する観光行動を的確に把握する必要がある。

しかし、既往の研究では、観光行動に大きな影響を及ぼす情報探索行動を考慮に入れた観光行動調査を行ってきていないため、正確な観光行動を把握することができない。また、実際の観光地周遊行動を正確に把握するためには、紙ベースの調査を行っても、観光は非日常的な行動であるため、想起するのにも限界があり、その上各モニターに大きな負担がかかるため、具体的に詳細な行動を把握することは困難である。

以上のことから、観光前に観光スケジュールリング行動を把握するための調査を行い、観光中に GPS 携帯電話を用いて正確な観光周遊行動を把握する調査を行い、そして観光後には、観光地評価等の調査を行うといった 3 段階にわたる新たな観光行動実態調査を提案することを本研究の目的とする。

よって、本論では、その調査手法を概説する。そして、この観光前スケジュールリング調査から得られたデータを利用して、情報提供の評価分析を行った。

2. 観光行動実態調査及び対象観光地の概要

平成 17 年 11 月 7 日(月)～11 月 27 日(日)まで、しまなみ海道沿線地域で、観光行動実態調査を実施した。しまなみ海道とは、瀬戸内海に位置する自然を活かし

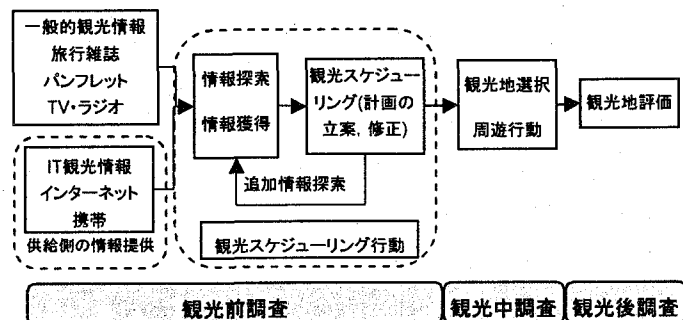


図 1. 観光行動モデル

た観光地であり、広島と愛媛を結ぶ西瀬戸自動車道の愛称である。本調査では、既存のシステムを有効に使うことも地域活性化につながると考え、しまなみで運用されているレンタサイクリングシステムを利用することにした。本研究で実施した観光行動実態調査の概要を表 1 に示す。モニターは全 35 グループとなった。

表 1 観光行動実態調査概要

	調査内容	目的
観光前	HP「しまなみ情報」を用いたスケジュールリング調査	情報提供前後の行動計画の把握 観光行動の基本特性の把握 観光スケジュールリング行動を論理的に表現
観光中	GPS 携帯電話を用いた観光行動調査	具体的でより正確な観光行動の把握
観光後	観光行動調査	観光計画と実際の観光行動の比較と観光地評価

1) HP「しまなみ情報」を用いたスケジュールリング調査（観光前）

観光前調査では、観光地の魅力度を把握する項目、情報収集手段やインターネットの能力を問う項目、そして個人属性といった項目があるアンケートを実施した。また、この調査では、HP「しまなみ情報」(図 2) で提供しているシステムである「しまなみ観光ナビ」を利

用して、このシステムの使用前後でそれぞれ観光計画を立案・修正してもらい、その変化を評価した。また、モニターが観光計画の立案・修正を行うためにインターネットで情報を探索している間、PC画面を録画することで検索フレーズ、各ページの滞在時間、検索を終了するタイミング等の抽出を行った。

—HP「しまなみ情報」(図2)—

本調査で観光計画立案時に利用するしまなみ情報提供実験サイトであり、提供情報として6つのシステムで構成されている。そして、本研究では6つのシステムの中で「しまなみ観光ナビ」に着目する。このシステムにはスケジュールリング機能がついており、利用することで観光地の滞在時間、移動時間など高関与な情報を得ることができ、それらの情報をもとに観光計画を立てるサポートをしてくれる。

2) GPS 携帯電話を用いた観光行動調査(観光中)

観光中に実施する調査には携帯GPS調査がある。これは、GPS機能付き携帯電話から定期的に観光中のモニターの位置情報を取得し、サーバに保管するというものであり、取得情報として時間、緯度、経度といった位置情報を得ることができる。

実際に取得できた位置情報を用いて、アンケートでは得られない正確な観光行動情報を得ることができた。以下の図3,4にその例を示す。図3からは、観光中の詳細な移動経路がわかり、図4では、観光地ではなく短時間滞在している場所を確認することができた。

3) 観光行動調査(観光後)

観光後には訪問した観光地、滞在時間、観光地等の満足度などについて調査した。

本調査は観光スケジュール段階である情報探索行動等を含んだ調査を行っており、一連の観光行動を総合的に把握できる新しい調査方法論として特徴があると考えられる。

3. しまなみ観光ナビの情報提供評価分析

観光前に調査した観光スケジュールリング行動に着目する。図5より、しまなみ観光ナビの使用前後で平均サイクリング時間、平均滞在時間ともに減少していることがわかる。これは、高関与な情報を得ることで、サイクリング時間等の不確実性が減少したことが原因

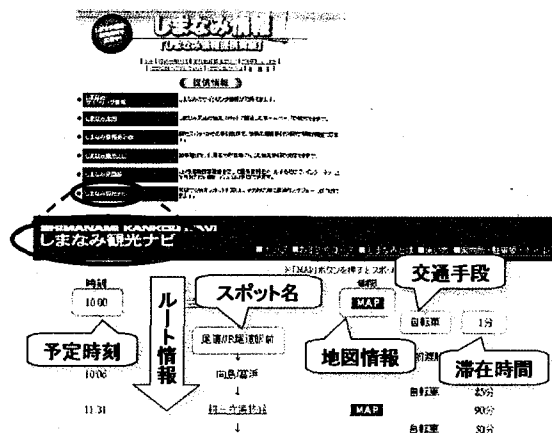


図2. HP「しまなみ情報」と「しまなみ観光ナビ」



図3. 詳細な移動経路



図4. 短時間滞在点

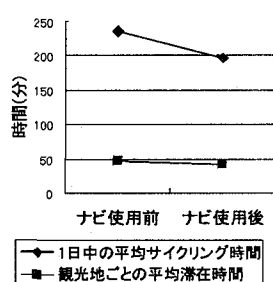


図5. しまなみ観光ナビ使用前後の観光時間の変化

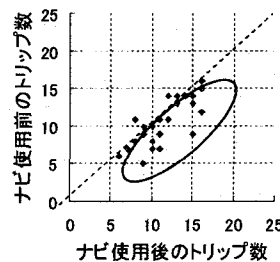


図6. しまなみ観光ナビ使用前後のトリップ数の変化

だと考えられる。また、より正確な情報が得られることにより、新たなトリップが生じていることが図6より確認できる。これらのことから、「しまなみ観光ナビ」による情報提供が観光スケジュールリング行動に大きく影響を及ぼしていることが確認できた。

4. まとめ

本研究では、しまなみ海道をフィールドとした新たな観光行動実態調査を実施した。そして、観光前のスケジュールリング調査から得られたデータを用いて情報提供の評価分析を行った。今後はこの調査データを用いて、一連の観光行動を表現する総合的な観光行動モデルの開発を行っていくことが課題として挙げられる。

参考文献

- 1) GoogleMap: http://www.map-asp.net/Spatial_Gateway/pl/Gate_2.html